

# 令和6年度 学校努力点について

## 1 研究主題

### 子ども中心の学びの実現

～自分に合ったペースや方法で学び、発表することを通して～

## 2 主題設定の理由

「ナゴヤ学びのコンパス」では、「子ども中心の学び」を目指している。「子ども中心の学び」とは、子どもたちが自分に合った興味・関心・能力や特性などに合わせて学習方法や学習内容を個別に最適化する学びのことである。重視したい学びの姿として、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことが挙げられ、子どもたちが学習に見通しをもち、学習状況を振り返り、調整しながら学習を進めていくことは、大切だと述べられている。

本校では、学校行事として、教科・領域で学んだことを保護者に向けて発表する「学習発表日」を設定している。これまでは、「学習発表日」で発表するまでに、教師が用意する統一されたワークシートを活用したり、調べる時間・発表原稿を作成する時間・発表練習の時間というように、各学習過程の時間数を教師が設定したりすることが多かった。また、子どもが自身の学習状況を把握することができておらず、設定した単元時間数で発表まで至らないことも少なくないことから、自分に合ったペースや方法で学ぶことができているとは言い難いことがあった。

「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ためには、子どもが「活動時間」「学習課題」「学習方法」を設定したり選択したりすること、子どもが「学習する相手」や人数を選択し協働的に学習すること、自分の学びを振り返り学習状況を正確に把握し、次の学習の見通しを立てることが重要であると考えます。

そこで、単元のまとめとしての発表を見据えた上で、単元内での学習計画を子どもが立てたり、活動時間を子どもが設定したりする実践や、ペアで学ぶか3、4人のグループで学ぶかといった学ぶ相手や人数を子どもが選択し、友達や教師に力を借りたり、自分の力を貸したりとゆるやかな協働性を意識した実践を積み重ねたいと考える。また、どの教科・領域においても、振り返りを行い、自分の学習状況を正確に把握し、次の学習の見通しを立てることが必要であると考えます。

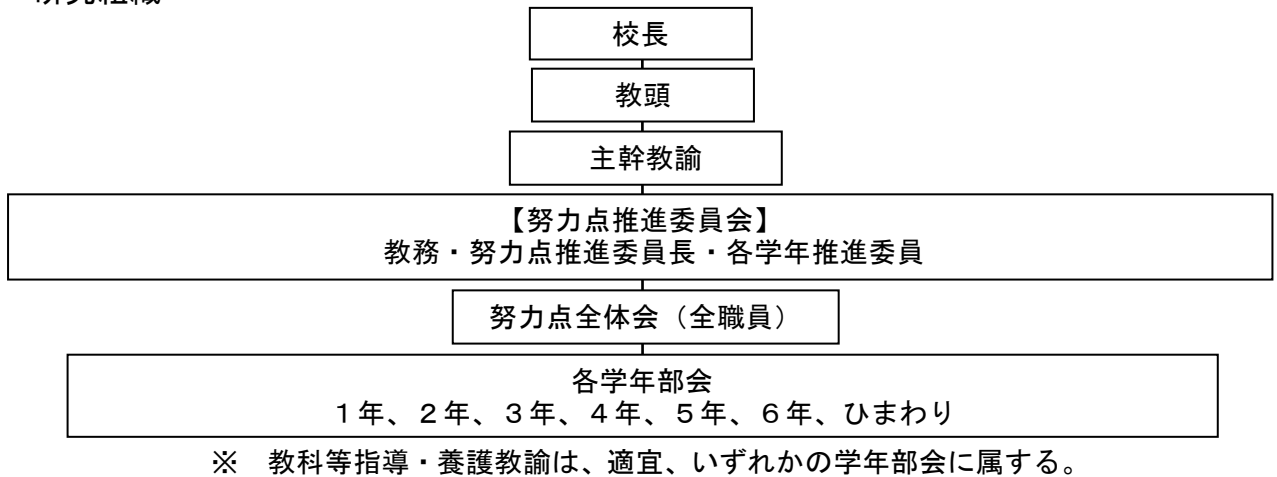
以上から、今年度の学校努力点では、指導の重点を以下のように設定する。

### ○ 「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ために

- ① 「活動時間」を子どもが設定できる指導の工夫
- ② 「学習課題」を子どもが設定したり選択したりできる指導の工夫
- ③ 「学習方法」を子どもが選択できる指導の工夫
- ④ 「学習する相手」との協働を促す場面や環境の設定
- ⑤ 発達段階に合わせた振り返りの観点の提示

これらの指導に重点を置き、「学習発表日」での発表のみならず各教科領域で、単元のまとめとしての発表を見据えた上で、自分に合ったペースや方法で学び、発表することを通して「子ども中心の学びの実現」を目指していく。

### 3 研究組織



### 4 研究推進について

- 教科・領域は自由とし、各学年部会1授業以上公開する。  
(公開は1授業以上だが、各学級、努力点に関わる授業は日常的に行う。公開授業については、指導案を作成する。公開授業以外は任意とする。)
- 事前・事後検討は、各学年部会推進委員が中心となり部会で進める。教務主任・努力点推進委員長も原則参加する。他部会も時間の都合がつけば、参加する。
- 授業実践計画書は、各学年部会で検討後、校長、教頭、主幹教諭、教務、推進委員長に授業日3日前までに配付する。また、スズキ校務の掲示板にも3日前までに添付する。
- 授業実践計画書は、共有フォルダに保存し学校全体で共有できるようにする。また、授業内で使ったワークシートや資料も併せて保存する。

### 5 年間計画予定

	日 程	内 容
前 期	4 / 1 5 (月)	推進の内容、方法の検討 (推進委員会)
	4 / 2 2 (月)	推進の内容、方法の決定と共通理解 (全体会)
	5 / 1 2 (金)	年間計画提出 (各学年部会)
	5月～9月	前期実践 (各学年部会)
	9 / 2 6 月 (木) 全体会	中間報告会
後 期	1 0 月～1 2 月	後期実践 (各学年部会)
	1 2 月～1 月	最終報告会のまとめ作成 (各学年部会)
	1 / 2 0 (月) 全体会	最終報告会
	1 / 3 0 (木) 推進委員会	次年度に向けて
	3 月	全体会 (職員会議) 次年度の方向性の検討と伝達